

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01878

研究課題名(和文) D.M.ポズドネエフとロシアの実践的日本学

研究課題名(英文) D.M. Pozdneev and the Practical Japanology in Russia

研究代表者

A D y b o v s k i (Dybovsky, Alexander)

大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・教授

研究者番号：70252723

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：ロシアの優れた日本学者であるD.M.ポズドネエフ(1865～1937)の東洋学院における活動及び、当時のロシアの日本学の中心的人物であったE.G.スバルヴィンとの関係を始め、同氏によって編纂された教材、日露関係史に関する著書、キリスト正教東京ミッションとの協力、ロシア帝国王室東洋学会付属東洋実践アカデミー(1910～1917)における教育活動を考察し、ロシアの日本学発展への影響を明らかにした。特に、日本滞在(1905～1910)以降、帝政ロシアの新聞『Russia』などに同氏が発表した記事の内容を分析し、掲載された記事により、日露戦争後の両国の関係正常化への同氏による貢献を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study was devoted to the outstanding Russian researcher of Japan D.M. Pozdneev (1865-1937). First we observed his relations with the Eastern Institute in Vladivostok and E.G. Spalvin, who was the central figure of Russian Japanese studies at that time. Then we reviewed Japanese textbooks compiled by D.M. Pozdneev, his writings on the history of Japanese-Russian relations, his cooperation with the mission of the Russian Orthodox Church in Tokyo and, finally, his activities in the Eastern Practical Academy (1910-1917), which was established under the Imperial Society for Oriental Studies in St. Petersburg. As a result, we managed to find out the role of D.M. Pozdneev in the development of Russian Japanology. In addition, we analyzed the content of D.M. Pozdneev's articles in the Russian press and revealed his contribution to the normalization of Russian-Japanese relations after the Russian-Japanese War (1904-1905).

研究分野：ロシアの日本学史

キーワード：D.M.ポズドネエフ D.M.ポズドネエフによる日本研究 D.M.ポズドネエフの日本語教材 D.M.ポズドネエフのジャーナリズム ロシア帝国王室東洋学会付属東洋実践アカデミー ロシアの実践日本学史 東洋実践アカデミーにおける日本語教育 ロシアの東洋学史

1. 研究開始当初の背景

1906年、ロシアの日本学者 D.M.ポズドネエフは、日本滞在中に編纂した『日本歴史読本』を横浜で刊行した。2年後の1908年、東洋学院の E.G.スパルヴィン博士は、この著書に関し、80ページに亘って、きわめて否定的な書評を『東洋学院通報』で展開。これに対し、1909年、D.M.ポズドネエフは、97ページに及び「解答」を発表した。

ロシアにおける専門的日本学の先駆者である二人の論争及びその経緯について資料を収集し始めた時、D.M.ポズドネエフの日本学や、多数の日本語教材、また、数百本におよぶ新聞・雑誌記事についての研究が不十分であり、ロシアの日本学史における D.M.ポズドネエフの役割が十分に究明されてないと結論し、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究では、ロシアの現代日本学創立者の一人である D.M.ポズドネエフ(1865~1937)の日本学にかかわる活動を中心に、ロシアにおける実践的日本学の変遷を考察した。まず、D.M.ポズドネエフの日本学に関する著作を分析し、ロシアの日本学への同氏の貢献及び日本語教育の分野における同氏の活動の意義を明らかにすることを目指した。

殊に、E.G.スパルヴィンとの人間関係及び二人の学術的論争の真相を究明するとともに、ウラジオストク滞在中に実践的東洋学の影響を受けた D.M.ポズドネエフの日本学の分野における手法に着目し、そこから、極東ロシアの日本学とサンクトペテルブルグの日本学との相互影響を考察するに至ることが、本研究の目的であった。

3. 研究の方法

(1) 日本とロシアの公文書や外交文書、また、20世紀初頭の雑誌や新聞、D.M.ポズドネエフについての資料を収集し、当時のロシア東洋学の文脈に照らし合わせ、D.M.ポズドネエフの著書を読み込み、その結果を D.M.ポズドネエフと E.G.スパルヴィンの論争の趣旨、及び二人の人間関係に関する考察に反映させた。

(2) 東洋学院と、サンクトペテルブルグ・ロシア帝国王室東洋学会付属東洋実践アカデミーとの関係性を明らかにするために、サンクトペテルブルグとウラジオストクのアーカイブ等の資料を基に、両教育施設の教育システムを対照分析した。

(3) サンクトペテルブルグの国立極東公文書館に保管されている D.M.ポズドネエフの論文や記事の原稿、私事や趣味についての雑記、家族との文通等の資料を使って、日本学者としての D.M.ポズドネエフの人物像の把握に努めた。

(4) ロシア科学アカデミーや、サンクトペテルブルグ等の資料館で保管されている帝政時代のロシアの新聞・雑誌に掲載された

D.M.ポズドネエフの記事を収集・分析し、ロシアの外交や新聞記事の内容等によって、当時のロシアの世論への影響を考察した。

4. 研究成果

(1) D.M.ポズドネエフの人生の経緯を背景に、同氏の主な日本語教科書と教材及び日本語教授法における理論と実践を考察し、さらに、日本の地理・経済・歴史・文化・政治・日ロ関係に関する著書を分析し、当時のロシアの日本学の発展や次世代の日本学者養成における D.M.ポズドネエフの役割を明らかにした。

(2) D.M.ポズドネエフは、東洋学院院長のポストに就いていた時(1904~1906)、教育機関の指導者及び大学教員としての経験がなく、東洋学院の教員及び学生との関係において多くの問題を起こしたが、その反面、同じころ、ロシアの隣国である日本研究の重要性を悟った。そのため、日本に移住し、ジャーナリズムの実践と情報活動により生活費を稼ぎ、日本語の学習、日本語教科書の作成、日本国や日露関係史についての資料収集に没頭し、日本滞在の約5年で、屈指の日本学の専門家に成るに至った。最初の日本語教科書であった『日本歴史読本』は、日本文の誤訳が多かったため、当時のロシアの優れた日本学者であった E.G.スパルヴィンによる批判の根拠は十分あったが、同氏の批判は、学術的な議論の枠を超え、1930年代、E.G.スパルヴィンの教え子である N.P.マツォキンがソビエトの日本学者の著書を批判する攻撃的スタイル¹の前例となった。本研究では、D.M.ポズドネエフと E.G.スパルヴィンとの論争の趣旨及びこの論争の背景にあった人間関係の経緯が詳細に分析されている。

(3) 東洋学院で D.M.ポズドネエフは、同氏の兄である A.M.ポズドネエフが一生推進した東洋学研究の手法としての実践的東洋学の重要性をよく理解していた。実践的東洋学は、「ロシアの事業」(A.M.ポズドネエフ)、即ちロシア帝国の拡張を支援するための人材育成の意図をもって、当時の財務相セルゲイ・ヴィッテなど、ロシア帝国の官僚により、ウラジオストクの東洋学院で始められた。ウラジオストクの実践的東洋学の成功を生かすために、東洋語学習コースなどを経て、1909年、ロシア帝国王室東洋学会付属の東洋実践アカデミーが開設された。当時、二等文官にまで昇進した A.M.ポズドネエフ教授は、多年にわたり東洋実践アカデミーの指導者として、

¹ これについて以下の論文を参照。

Дыбовский А.С. О трудах и направлениях научно-исследовательской деятельности Николая Петровича Мацокина (1886–1937) // Пути развития востоковедения на Дальнем Востоке России. Владивосток, 2014. С. 170–188.

実践のための言語教育を含む実践東洋学を推進し続けた。当アカデミーの日本学及び日本語教育の実施に大きく寄与したのは、D.M.ポズドネエフである。同氏は、1905～1910年の日本滞在中、当時の日本についての情報を収集し、日本語教授法を学び、和露辞書や日本語教材を編纂し、1910年代には、サンクトペテルブルグの日本学や日本語教育の中心的な人物となり、コンラド、ネフスキーなど次世代のロシアの日本学者の養成に大きな貢献をした。当アカデミーにおける実践東洋学教育は、かなりの規模まで発展したが、しかし東洋学院の教育水準にまで到達することはできず、ロシア革命後の1918年に終焉を迎えた。しかしながら、当アカデミーが、ソビエト時代の日本学及び東洋学の発展に好影響を与えたことは看過できない。

本研究では、サンクトペテルブルグのアーカイブの資料等で、東洋実践アカデミーの設立の歴史、その教育の特色及び、そこにおける実践的日本学推進者としてのD.M.ポズドネエフの教育活動が詳細に考察されている。

(4) D.M.ポズドネエフは、日本滞在中、情報活動をしつつ、ジャーナリズムにも従事した。1906～1908年には、日本、イギリス、フランス、ドイツ各国の新聞記事を露訳し、サンクトペテルブルグ電信代理店に送信した。また、1909～1910年の間には、「Russia」、「New Times」等の新聞で、ロシアの読者に大きな影響を与えた、日本についての体系的なレビューを発表。翌年の1911年には、サンクトペテルブルグ電信代理店の編集委員に着任し、1912年になると、特別の情報誌を刊行する「ロシアジャーナリストの同盟」を設立し、主に国際関係ジャーナリズムの分野を開拓した。本研究では、D.M.ポズドネエフにより書かれた日本についての主な記事が分析され、ロシア世論への影響が究明されている。

(5) 驚異的な忍耐力と勤勉さのおかげでD.M.ポズドネエフは、短期間で日本語を習得し、情報活動などを通して日本についての膨大な量の情報を収集し、ロシア屈指の日本学者になり、専門的なジャーナリストになった。同氏は、日露経済協力の発展を目指して、20世紀初頭の日本の現状を把握しようと努め、サンクトペテルブルグにおいて、ウラジオストクの東洋学院で開始された実践日本学の推進者となった。本研究では、D.M.ポズドネエフが、日本の研究や日本語教育、日露関係改善やロシアにおける日本の経済、政治、文化のロシア市民への紹介に、その人生の大半を捧げた、「ロシア事業の推進者」であり、愛国主義者であったことが明らかにされている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

- (1) A.C. Дыбовский. О споре Е. Г. Спальвина и Д. М. Позднеева по поводу «Японской исторической хрестоматии». Основные положения доклада. (研究報告レジュメ:『日本歴史読本』に関する日本学者に議論について) // Материалы XXXI Российско-японского симпозиума историков и экономистов ДВО РАН и района Кансай (Япония). Сборник статей / отв. ред. Ларин В. Л., Фудзимото В., Кожевников В. В. — Владивосток: Дальнаука, 2016. С. 115 - 120. (露語、査読なし)
- (2) A.C. Дыбовский, О.П. Еланцева. О споре японоведов по поводу «Японской исторической хрестоматии» и его истоках: Е.Г.Спальвин vs Д.М.Позднеев (『日本歴史読本』に関する日本学者の議論とその源泉について、O.P. Elantseva 共著) // Studies in Language and Culture. 2016. Vol. 42. Pp. 267-293. (露語、査読あり)
- (3) A.C. Дыбовский, Ю.Д. Михайлова. Дмитрий Матвеевич Позднеев (1865–1937) как японовед (1). Изучение вопросов японского страноведения и российско-японских отношений (日本学者としてのD.M.ポズドネエフ(1865–1937)、Yu. D. Mikhailova 共著) // Studies in Language and Culture. 2017. Vol. 43. Pp. 267-293. (露語、査読あり)
- (4) A.C. Дыбовский. Японоведение в Практической восточной академии при Императорском обществе востоковедения (1910-1917) 王室東洋学会付属の東洋実践アカデミーにおける日本学(1910-1917) // Studies in Language and Culture, 2018. Vol. 44. Pp. 243-262. (露語、査読あり)
- (5) A.C. Дыбовский. Тема Японии в журналистике Д.М. Позднеева (D.M.ポズドネエフのジャーナリズムにおける日本のテーマ) // Материалы XXXIII Российско-японского симпозиума историков и экономистов ДВО РАН и района Кансай (Япония). 31 августа – 1 сентября 2017 г. Владивосток, 2018. С. 109-131. (刊行中、露語、査読なし)

〔学会発表〕(計 3 件)

- (1) A.C. Дыбовский. Об одном споре японоведов: Е.Г.Спальвин vs Д.М.Позднеев (日本学者のある議論について—E.スパルヴィン対D.ポズドネエフ) 10 сент. 2015 г. XXXI Российско-японский симпозиум

историков и экономистов ДВО РАН и района Кансай (Япония)(第31回ロシア科学アカデミー極東支部と関西地域(日本)日露歴史経済学シンポジウム、ウラジオストク、ロシア語で発表、日本語逐次通訳付き)

- (2) A.C. Дыбовский. Тема Японии в журналистике Дмитрия Матвеевича Позднеева(D.M.ポズドネエフのジャーナリズムにおける日本のテーマについて) XXXIII Российско-японский симпозиум историков и экономистов ДВО РАН и района Кансай (Япония). 1 сентября 2017 г. Владивосток, Институт истории, археологии и этнографии ДВО РАН (第33回ロシア科学アカデミー極東支部と関西地域(日本)日露歴史経済学シンポジウム) 2017年9月1日(ウラジオストク、ロシア語で発表、日本語逐次通訳付き)
- (3) A. ディボフスキー 王室東洋学会付属の東洋実践アカデミーにおける日本学(1910-1917) – D.M.ポズドネエフを中心に – ロシア・東欧学会・JSSEES、2017年合同研究大会 10月22日(一橋大学、日本語で発表)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

(1)

A. ディボフスキー ыбовский Александр Сергеевич (Dybovsky Alexander)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：70252723

(2) 研究分担者
(0)

研究者番号：

(3) 連携研究者
(0)

研究者番号：

(4) 研究協力者
(2)

(1) O.P. Yelantseva (Ольга Павловна Еланцева) ロシア極東連邦大学・芸術人文科学学部・教授

(2) Yu.D. Mikhailova (Юлия Дмитриевна Михайлова) 広島市立大学・国際学部・名誉教授、研究者番号：00285420